

家庭教育力の強化を図ろう

～ 保護者の負担を軽減し、家庭内における会話の機会創出を ～

岡崎市立竜美丘小学校 P T A

1 学区及び学校の概要

本校は、昭和 51 年に市内 37 番目の小学校として開校し、今年度、48 年目を迎える。区画整理する土地が岡崎城の別名「竜城」の辰巳（南東）の方向にあたることから、「竜美ヶ丘」の名がつけられた。学区には、野鳥の森と呼ばれる竜美ヶ丘公園をはじめ、奈良井公園や棚田公園などの大きな公園があり、自然と住居地がバランスよく共存している地域である。

校訓「精いっぱい」のもと、学校と保護者・地域が連携し、「笑顔・学び・感謝」を大切にされた教育活動を展開している。特色ある教育活動として、本格的な土俵を使用した相撲集会や愛鳥週間に行われる愛鳥集会、さらにみかん狩りがあり、子供たちの自慢の学校である。

2 研究のねらい

子供たちの健やかな成長は、学校、家庭、地域のよい連携によって育まれていく。学校教育だけではなく、地域を含めた家庭においても、子供たちの教育に携わっていくことが必要となっている。P T Aとして、学校の方針に沿いつつ、各種行事を通じて「家庭内で子供と親が会話するきっかけ」を増やすことで、「家庭教育力の強化」につなげることをねらいとした。

3 研究の仮説

保護者が参加できる P T A活動の充実を図り、親子で話題になりそうな思い出に残る行事を実施し、家庭内で子供と親が会話する機会を増やすことで、家庭教育力の強化を図ることができるであろう。

4 研究の方法

三つの P T A行事を研究対象に定め、企画・開催を通じて、児童、教職員、P T A役員、保護者の反応から検証することとした。ただし、研究のための活動ではなく、あくまで P T A行事の副次的効果として「家庭教育力の強化」があると位置付けた。

5 研究の実践

(1) タイムカプセル「たつみ缶」、学校放送を活用した動画放映

本校では、P T A活動として「竜小フェス」という行事を実施していたが、コロナ禍の中、大規模なフェスが長年実施できていなかった。代替案として子供たちのためにできることはないかと模索し、タイムカプセル「たつみ缶」とお昼休みを活用した P T A役員による動画放映を実施した。

「たつみ缶」は、子供たちがそれぞれ、未来の自分や家族、友達に対してメッセージを書き、子供たちが設定した時期に自ら開けてもらうことにした。未来の自分への質問を書き、缶の中に子供自らが入れ、役員が蓋をして



【「たつみ缶」の作り方の説明プリント】

家に持って帰るという形式をとった。

学校放送を活用した動画放映では、教職員が紙飛行機飛ばしやアルミ缶積み、魚釣りで対戦した様子を流した。また、学校の施設紹介や、普段子供たちと関わりの少ない校務員さんの紹介などをクイズ形式で出題した。いずれの活動も、子供たちには好評であり、家庭内における会話機会の増加に寄与したものとする。

（２）ボランティア制の試験的導入

本校では、これまで1 Day サポートとして、1 家庭 1 支援の役割を全家庭で担っていただく体制をとっていた。しかしながら、この変化の時代に、環境に応じた負担のない P T A 活動を継続的に実施するため、保護者の負担軽減が重要だと考えた。従来 1 Day で割り振っていた P T A 活動を、試験的にボランティア制とし、活動ごとにボランティアを募って実施した。

導入にあたり、保護者へのアンケートを実施したところ、66%が「条件が合えば参加してもよい」、理由は「子供を見ることができる」「学校の様子を見ることができる」が大多数であった。

実際に、運動会のテント片付け、アルミ缶回収、P T A 新聞、校内清掃、おかしきっ子展の搬入・搬出でボランティアを募り実施したが、現時点では十分な人数と質が担保できている。参加者からは非常に前向きなコメントをいただき、保護者の負担軽減につながったと考える。

（３）目の講義（デジタル機器の正しい使い方）の実施

現在、世界中で子供の視力が下がっているという大きな問題があり、本校の職員や保護者からも子供の視力低下を不安に思う声を多く聞くようになってきた。

そこで、デジタルデバイスの正しい使い方や目の知識について家庭で改めて見直すことが必要ではないかと考えた。本年度、眼科医療機器の開発に従事している役員が講師となって「自分の目は自分で守ろう ～デジタル機器との上手な付き合い方～」をテーマに目の講義を実施した。

講義実施後に全児童と保護者を対象にアンケートを実施したところ、回答のあった 95%の児童や保護者から「とてもためになった、目のことについて気を付けていこうと感じた」、93%の保護者から「目について子供自ら意識する行動をするようになった、家庭でルールを決めた」との結果が得られ、各家庭で目を守る意識が高められた活動であったと考える。



【「自分の目は自分で守ろう」講義の様子】

6 研究の考察

子供と保護者の間で話題になりそうな行事を保護者の負担なく実践することで、「家庭内で子供と親が会話するきっかけ」を増やすことができ、家庭教育力の強化につながったと考える。

7 成果と今後の課題

保護者の負担を軽減しながら、時代の流れに沿った形で各種行事を実行することで、家庭内における教育力の向上に寄与できたと考える。しかしながら、5（１）（２）においては P T A 役員の負担が増える結果となったこと、（３）においては、実施後のフォローが課題だと考える。

今後、学校と家庭が協力して「子供たちのためにできること」を考え、保護者の負担軽減を目指しながら持続可能な P T A 活動の実践とフォローを継続していく必要があると考える。